

まえがき

沖縄県には第二次世界大戦の戦中・戦後以降の保健医療看護に関して、当事者の手記を含め様々な記録や多くの資料があります。しかしそれら時代に使われていた看護用品に焦点を当てた資料はほとんど目にすることはありません。さらに当時に用いられていた看護用品は、施設の改・新築等に伴い、急速に散逸・処分されているのが現状です。このような看護用品や物品には、その時代が反映されており、それらを手がかりに当時の看護や看護を取り巻く状況の理解を深めることができると思います。さらに過去の歴史を知ることは、現在を理解し未来を構想する上で重要だと考えます。

そこで平成15年9月から平成17年3月の期間、第二次世界大戦戦中から施政権返還までの沖縄県の看護を支えてきた24名の方に、その当時のエピソードを語っていただき、語り手の足跡と共に看護の歴史を知るために活用できる資料集を完成することができました。今後も多くの方々からの情報を得て資料集として作成していきたいと思っておりますので、情報提供や写真の撮影にご協力をお願い申し上げます。

本研究は、平成16年度沖縄県立看護大学学内共同研究費より助成金を受け実施した。

代表・編集：金城 忍

共同研究者：安里葉子，上江洲貴乃，上原綾子，大田貞子，
嘉手苺英子，川崎道子，名城一枝（五十音順）